

「廃校活用で生まれるもの」

安中市立松井田中学校

3年 中山 星恋

安中市には現在、いくつかの小中学校があるか知っていますか。昨年度までは13校の小中学校が存在していましたが、細野小学校が松井田小学校と、後閑小学校が原市小学校と統合したことで現在では11校の小中学校が安中市にあります。このように安中市では、ここ数年で何校かの学校同士が統合し、廃校となる学校が増えています。学校施設はどこも広く、部屋数も多いです。私は、廃校になってしまった学校が、このまま何もされずに残されていくだけではもったいないと思います。そこで、廃校となってしまった学校はどのように活用されているのかを調べ、自分ならどんな活用をするか考えてみました。

まず文部科学省のホームページで、廃校活用事例集「未来につながる みんなの廃校プロジェクト」というプロジェクトというのを調べました。

群馬県での活用事例には、みどり市旧福岡西小学校という小学校を改修し、多世代交流館という社会教育施設をつくった事例がありました。この施設は、子どもたちが遊べる部屋やサークル活動のできる部屋などがあり、校庭では子どもたちが遊んだり、グラウンドゴルフ大会を開催したりするなど、子どもから大人までが利用できるため、多世代が交流できる施設となっているようです。他の群馬県の活用事例には、みなかみ市の旧猿ヶ京小学校を再利用してつくられた「泊まれる学校さる小」というものがあります。公式ホームページによると、木造建築でぬくもりを感じられ、学校ならではの給食を食べられるなど、自然の中で懐かしさを感じて過ごすことができるということです。

群馬県内にある廃校の活用事例を2つ紹介しましたが、どうでしょうか。2つの施設は、学校の校舎の特徴や良いところを活かし、様々な人が交流することができるとなっています。また、2つの廃校活用事例は、人々のつながりをつくったり、廃校となってしまった学校と人とのつなが

りもつくったりしています。たくさんの方の持つ
廃校との思い出を新しい形で次世代に託し、残す
ことで、廃校は更に多くの人の役に立ち、忘れ去
られたりすることはなくなるでしょう。だからこ
そ、私は安中市の廃校も有効に活用したいと考え
たのです。

次に、私の考えた安中市の廃校の活用方法を発
表します。一つはやはり、学校の遊具施設を更に
整え、子どもたちが楽しく遊べる広場など、子育
て支援に関する施設を作るという活用方法です。
私の母が、松井田には広い公園が少なく、子ども
たちの遊び場が十分じゃないと言っているのを耳に
したこと、から、有効に活用できるのではないかと
考えた方法です。少子高齢化が進む中で、子ども
たちの過ごしづらい環境を作ってしまうと、安中
市はさらに子どもが少なくなってしまうと思いま
す。このように子育て支援環境を改善して、安中
市の活性化のために活用する、というのが私の一
つの意見です。2つ目は、安中市には高齢者も多
いため、高齢者の人たちが健康に過ごしていくた
めの施設を作ることでもいいと思います。数の少な

い子ども、数の多い高齢者のどちらにも気遣った
市にしていけば、よりよい安中市を目指すことも
できると私は考えます。

このように、廃校は、活用することで街の活性
化につながると考えます。廃校の活用は、ただの
「廃校」だった場所を「地域の輪をつくる場所」
という存在にすることで、廃校でのみんなの思い
出を作ることができます。廃校が母校であった卒
業生にとっても、自分の母校が地域にとって重要
なものになることは、誇りとなると思います。廃
校を活用することは、地域、人々を支えたり、つ
なぐたりすることがあります。ですが、それだけ
でなく、再活用することはたくさんの方がお世話
になった廃校に恩返しをすることもできると思い
ます。いつまでも大切にされ、必要とされる自分
の母校、とても素晴らしいと思いませんか。つな
がり、支え、恩返し、少子高齢化への対策、廃校
は活用されることで様々なものに昇華します。安
中市の廃校の様々な活用方法を、皆さんも考えて
みませんか。